

花鳥靈園を所有（永代使用）のご尊台各位へ謹んで朗報をお伝えいたします。

尊いご先祖様、お身内の遺骨をご安置されている花鳥靈園は永遠の安らぎの奥津城（おくつき）、花降るお浄土であります。

仏教では「願生浄土」と申して、浄土に往生することを願う心の拠り所なのであります。

さて、花鳥靈園の霊域には三階建ての管理棟が建設されております。本来は、供養・回向の法要、儀式・法話を執り行う宗教活動の中心であります。が、その活用に於いて当初より低調、不十分でありました。

そこで、現・所有者の田村元起代表の協力を得て、公の『宗教法人』真言宗東芳山花鳥寺を設立。京都府庁にその認証手続きを行い、この四年間に亘って宗教活動を積極的に継続してきました。

願いは単に同霊園を【墓場（はかば）】とせず「ご先祖と共に豊かな心を養う修行場」精神の拠り所の霊園・お寺とすべく住職の土口哲光が毎月法要儀式を執行、法話を語り続けております。

更に、昨春より春秋の両彼岸会、お盆法要（供養・回向）に赤誠を尽くして営んでおります。

お蔭様で花鳥靈園の方々から、そろりそろりとご参集を賜わり供養・回向に結縁を戴きました。

この尊いご縁をばねにして花鳥寺は花鳥靈園と一体となって内外に信仰の息吹を鼓舞してまいります。

御尊台各位と尊いご縁を一層顕揚して設立の花鳥寺の発展安寧にご協力ご支援を賜りたく伏してお願ひ申し上げます。

平成三十一年二月吉日

真言宗東芳山花鳥寺住職

土口哲光

追伸 同封の月刊公論誌に執筆の通り、私・土口及びその知人が花鳥靈園にお墓を建て、本堂管理棟等の競売に巻き込まれ、神聖な霊園が欲にまみれた係争の渦に。依頼を受けた田村佐起三が競売落札の上・墓地の借財を返済、担保を外して沈静化へ。土口が引継ぎ、より安寧の同霊園に導いてきました。